

長期戦略を 地域・くらしで 実現するために！

崎田裕子
ジャーナリスト
環境カウンセラー

自己紹介

■略歴

- 立教大学社会学部 卒業
- 11年の出版社勤務を経て、ジャーナリストに
- 環境省登録 環境カウンセラー
- 環境・エネルギーを軸に持続可能なくらし・地域づくり

- NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
- NPO法人新宿環境活動ネット代表理事
- 早稲田大学招聘研究員
- 全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会会長



▲NPO法人元気ネット共著
「みんなでつくる
オリンピック・パラリンピック」



▲NPO法人新宿環境活動ネット
新宿区立環境学習情報センター
指定管理者として、
市民・団体・企業の参加型運営

■主な公職

- 「中央環境審議会」で、環境基本計画、循環基本計画、各種リサイクル法、長期戦略・プラ戦略等審議に参画。
- 「総合資源エネルギー調査会」で、エネルギー基本計画、再生可能エネルギー・水素戦略等審議に参画

- 東京2020競技大会組織委員会「街づくり・持続可能性専門委員会」委員「持続可能性DG」「資源管理WG」座長として、東京2020大会の運営計画づくりに参画

持続可能な地域・社会づくりに向け 市民・事業者・行政の連携で 環境学習を推進



2019新宿「みどりのカーテン」プロジェクト

みどりのカーテンを

育て方のコツが分かります！
だから、今年こそチャレンジ！

ゴーヤーの季節がやってきますよ！
今年もゴーヤーを育てましょう！

育てよう！

参加者大募集！

世界同時アンケート結果の衝撃

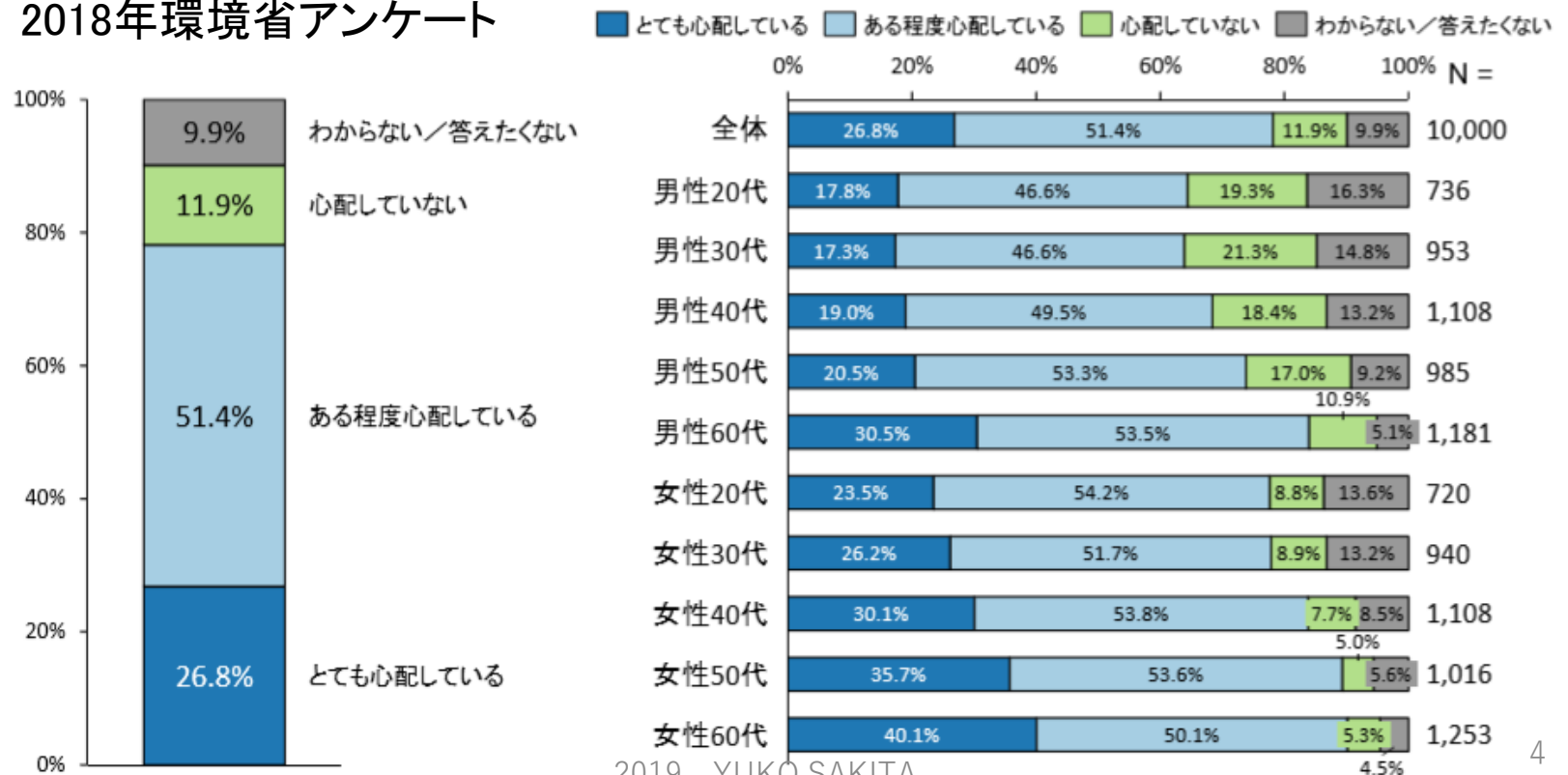
各国に比べて日本では、気候変動の影響を「とても心配している」人の割合が低い！！

96か国平均79%、日本は44% (2015年JST公表データ)



あなたは、気候変動の影響をどのくらい心配だと感じていますか。

2018年環境省アンケート



長期戦略を地域・くらしで実現するために！

- 1 持続可能性を東京2020大会のレガシーに
- 2 今世紀後半の早い時期にCO2ゼロに
- 3 長期大幅削減に向けた道筋をどう描く？



TOKYO 2020

Tokyo 2020
東京 2020 オリンピック・
パラリンピック競技大会
持続可能性に配慮した運営計画
第二版

2018年6月

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

持続可能性を 東京2020大会の レガシーに

国際オリンピック委員会

- 1994 スポーツ・文化に環境を
- 2014 持続可能性重視を宣言
- 2016 IOC持続可能性戦略



東京オリンピック・パラリンピック競技大会
組織委員会「街づくり・持続可能性」専門委員会資料

Be better, together



より良い未来へ、ともに進もう。

気候変動

脱炭素社会の
実現に向けて

資源管理

資源を一切
ムダにしない

大気・水・緑・ 生物多様性等

自然共生都市
の実現

人権・労働、 公正な事業慣行等 への配慮

多様性の祝祭

参加・協働、 情報発信

パートナーシップ
による大会づくり



記載の情報は2018年6月11日時点のもの
であり、イラストはあくまでイメージです。

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

2018 YUKO SAKITA

5つの主要テーマと大目標



① 気候変動: Towards Zero Carbon

(脱炭素社会の実現に向けて)

再生可能エネルギー電力による大会運営、
競技会場の省エネルギー化 等

② 資源管理: Zero Wasting (資源を一切ムダにしない)

調達物品の99%を再使用・再生利用、日本の木材活用リレー 等

③ 大気・水・緑・生物多様性等

: City within Nature/Nature within the City (自然共生都市の実現)

競技会場における雨水の循環利用、在来種の植栽 等

④ 人権・労働、公正な事業慣行等への配慮

: Celebrating Diversity ~Inspiring Inclusive Games for Everyone~ (多様性の祝祭 ~誰もが主役の開かれた大会~)

国連「ビジネスと人権に関する指導原則」への準拠、Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン 等

⑤ 参加・協働、情報発信(エンゲージメント)

: United in Partnership & Equality ~Inspiring Inclusive Games for Everyone~ (パートナーシップによる大会づくり ~誰もが主役の開かれた大会~)

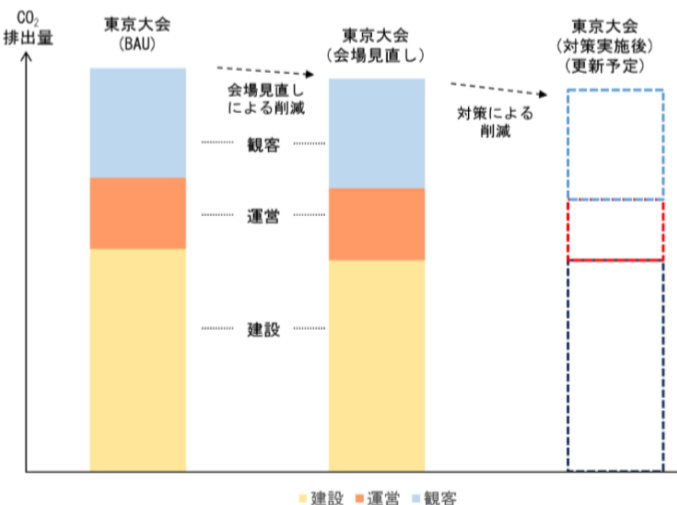
都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト、東京2020参画プログラム 等

①気候変動Towards Zero Carbon（脱炭素社会の実現に向けて）

パリ協定がスタートする2020年に開催される東京大会において、可能な限りの省エネ・再エネへの転換を軸としたマネジメントを実施することにより、世界に先駆けて脱炭素化の礎を全員参加で築く。

<主な取組>

- 既存会場の活用（競技会場全体の約6割）や省エネルギー化等により会場整備における環境負荷を低減
- 競技会場、IBC（国際放送センター）／MPC（メインプレスセンター）、選手村で使用する電力について、再生可能エネルギー電力を100%使用
- 公共交通機関や燃料電池自動車の活用等により。環境負荷の少ない輸送を推進



東京 2020 大会の CFP

区分	東京 (BAU)	東京 (会場見直し等による削減)	ロンドン (BAU) (ご参考)
建設	166 万 t-CO ₂	158 万 t-CO ₂	173 万 t-CO ₂
運営	53 万 t-CO ₂	53 万 t-CO ₂	46 万 t-CO ₂
観客	82 万 t-CO ₂	82 万 t-CO ₂	67 万 t-CO ₂
輸送インフラ	該当なし	該当なし	59 万 t-CO ₂
合計	301 万 t-CO ₂	293 万 t-CO ₂	345 万 t-CO ₂

水素・燃料電池で持続可能なモデル地域づくり

大会後に改修し5650戸の新しい街に
 ※東京都都市街地再開発事業

東京2020大会後の選手村(イメージ)
 ※東京都都市整備局資料

- ・ 賃貸・分譲5650戸
- ・ 高層棟は50階建て
- ・ 他は14～18階建て

★分譲棟住戸に家庭用燃料電池

★高齢者・若者・外国人など多様な
 ライフスタイルを支える街に

四者協定



←福島県内の再生可能エネルギーを活用し、
CO₂フリー水素の導入を進めるために
 福島県・東京都・国のエネルギー研究機関・
 東京都の活用機関の4者協定締結

②資源管理:Zero Wasting (資源を一切ムダにしない)

サプライチェーン全体で資源をムダなく活用し、資源採取による森林破壊・土地の荒廃等と、廃棄による環境負荷をゼロにすることを目指して、全員で取り組む。

<主な取組>

- 食品ロス削減の徹底と食品廃棄物資源化
- 調達物品の99%を再使用(レンタル・リース含む)・再生利用
- 運営時廃棄物の65%を再使用・再生利用
- 都市鉱山メダルPJで再生資源100%のメダルづくり
- 日本の木材活用リレー「みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」等により、再生可能資源の利用を促進



金銀銅メダルの再生金属利用100%を実現

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」

携帯電話は、鉱山の金含有率の80倍・銀は9倍。
再生資源活用めざし、小型家電を回収する世界初大会！

組織委員会資料より



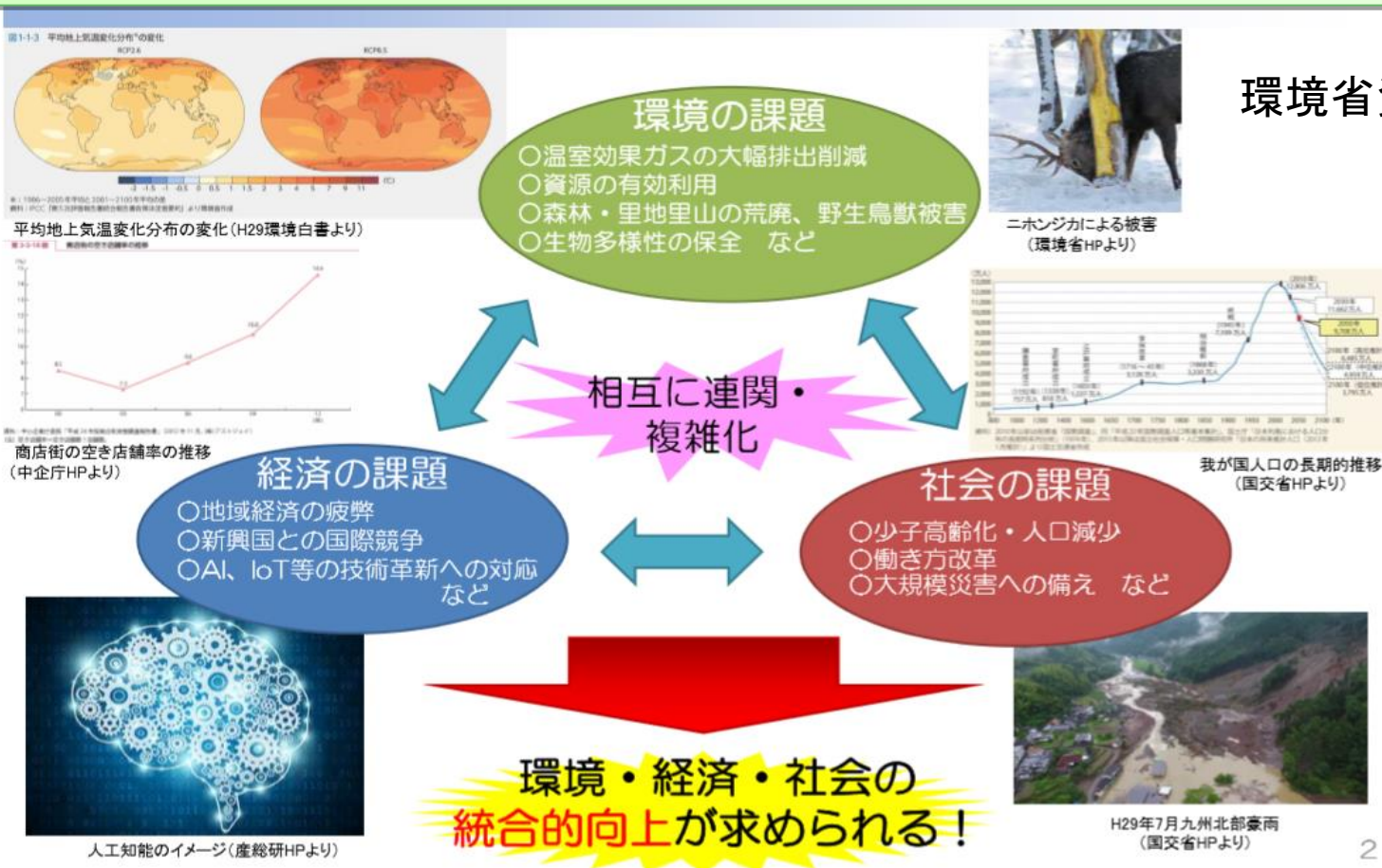
メダル各1666個分の金・銀・銅・亜鉛・錫・合計2t(材料ロス含め約8t)

持続
可能性

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト！



パリ協定が掲げる1.5°C努力目標に貢献するため、今世紀後半の早い時期にCO2ゼロに



新たな社会像「地域循環共生圏」

地域資源の循環 & 地域間交流で自立分散型社会に



日本の長期戦略の具体化めざし 脱炭素社会をどう実現する？

日本が目指す10の”ゼロ”

エネルギーで”ゼロ”

再生可能エネルギーの主力電源化

低コスト化・地域との共生によりCO2フリー電力を供給

CCS・CCUによる”ゼロ”

産官学連携してイノベーションを推進し、実用化したものを世界に輸出

CO2フリー水素による”ゼロ”

製造コストを10分の1にして水素社会を実現

ものづくりで”ゼロ”

ゼロカーボン・スチールによる“ゼロ”

高炉での水素還元拡大や高炉を用いない水素還元製鉄に挑戦

フロン類で”ゼロ”

グリーン冷媒やIoTによる統合管理で中長期的に廃絶

移動で”ゼロ”

“Well-to-Wheel”で”ゼロ”

エネルギーインフラとしての活用やオープン・イノベーションを推進

地域・くらしで”ゼロ”

住宅やオフィス等で”ゼロ”

今世紀後半のできるだけ早期にストック平均でZEB・ZEH相当に

農林水産業で“ゼロ”

ICTを活用した「スマート農業」やバイオマス利用でCO2ゼロエミッション

プラスチック資源循環

リデュース・リユース・リサイクルやバイオマスプラスチックにより脱炭素化

可能な地域・企業から”ゼロ”

1.5°Cレポートを踏まえ2050年を待たずに野心的な取組を後押し

住宅やオフィス等で”ゼロ”

今世紀後半のできるだけ早期にストック平均でZEB・ZEH相当に

くらしの脱炭素化のイメージ



<主なポイント>

- エネルギー
マネジメント
- 創エネ（太陽光
パネルの設置等）
- 蓄エネ（蓄電池
や電動車等）
- 省エネ（断熱性
能の向上等）

<メリット>

- 高い断熱性能により**快適性**向上、**健康**増進
（住宅のほか、医療福祉や教育施設などでも。
オフィスでは、最適照明や空調により生産性の向上）
- 電動車の活用（Vehicle to home）やヒートポンプ
などの蓄エネにより災害時でも**安全・安心**
- 住宅・建築物の耐震・長寿命も相まって**高い資産価値**
に

国土交通省
資料

地域・くらしで”ゼロ

農林水産業で“ゼロ”

ICTを活用した「スマート農業」やバイオマス利用でCO2ゼロエミッション



食品残渣の堆肥・養殖飼料 リサイクルシステム

三重県鳥羽市国際観光ホテル
戸田家

プラスチック資源循環

リデュース・リユース・リサイクルやバイオマスプラスチックにより脱炭素化

遊ばなくなったプラスチックおもちゃの リサイクルの輪をつなぐ「ハッピーリぼーん」PJ

日本マクドナルド(株)の店頭回収&再生プラスチック活用



- ・ 2018年2～5月実施
- ・ 回収目標100万個
- ・ 実績約127万個！！



- ・ 店舗用リサイクルトレイ
約10万枚製造
プラおもちゃ由来の
再生材10%使用

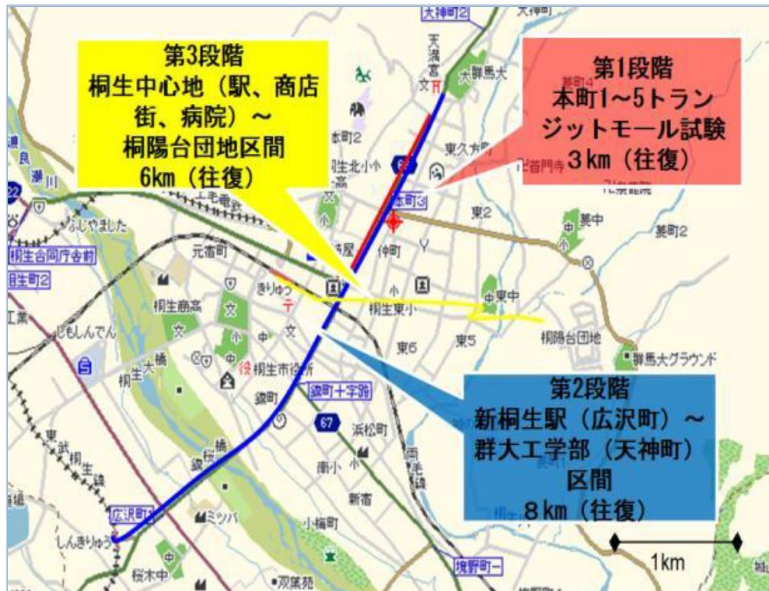
地域・くらしで”ゼロ“

可能な地域・企業から”ゼロ”

1.5°Cレポートを踏まえ2050年を待たずに野心的な取組を後押し

地域力による脱温暖化と未来のまち、桐生

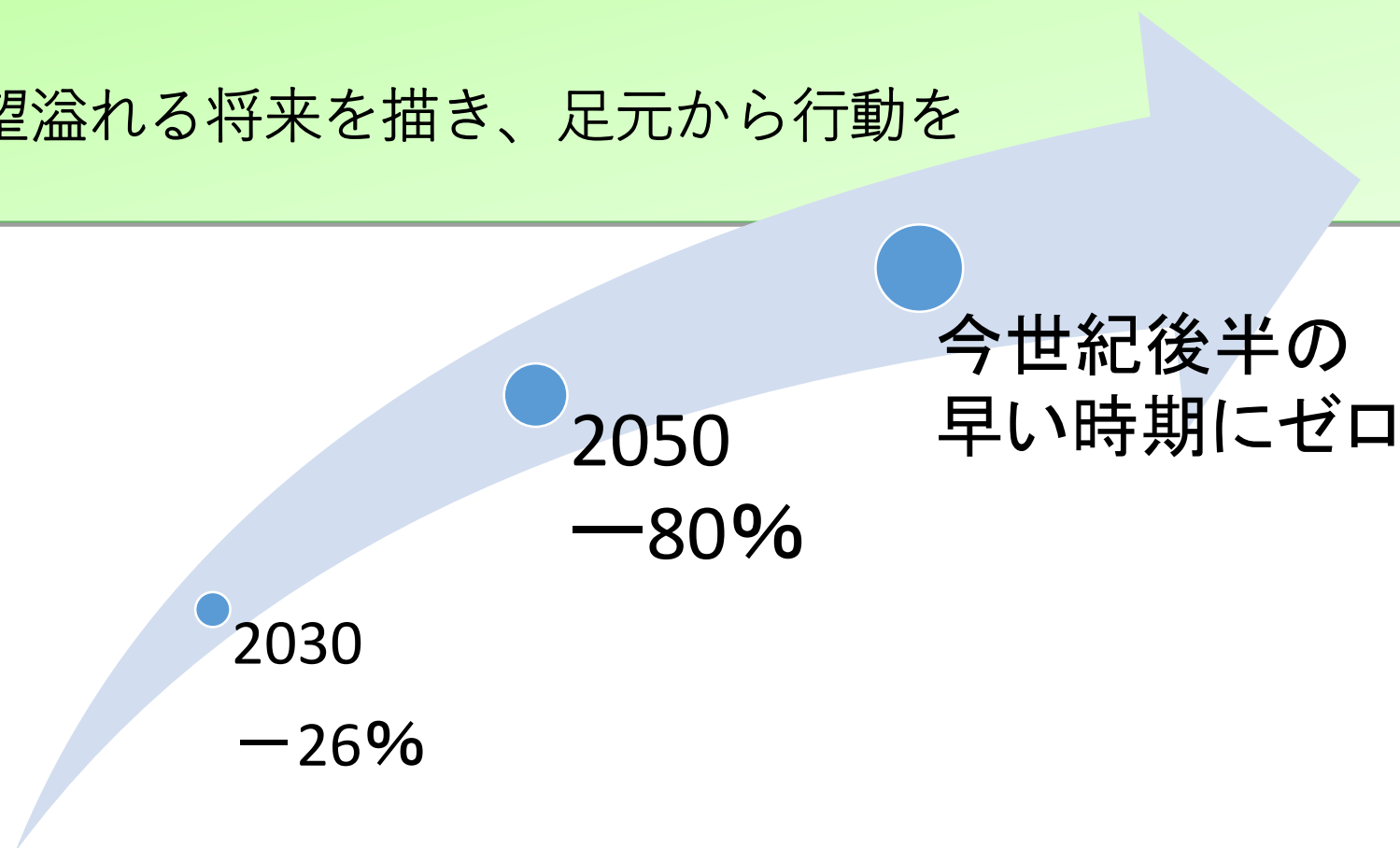
再生可能エネルギーを活用した
低速電気バスを運行



資料: 群馬大学宝田PJ、HP

長期大幅削減に向けた道筋をどう描く？

希望溢れる将来を描き、足元から行動を



希望溢れる将来像を描き、 暮らし・地域で実現するのは、私たちの連携の力



的確な情報
+

コミュニケーション

↓

共創の場づくりへ

地域と世界をつなぐ共通言語「SDGs」

国連「持続可能な開発のための2030年目標」

17目標と 169ターゲット



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

国連広報センター
HPより

